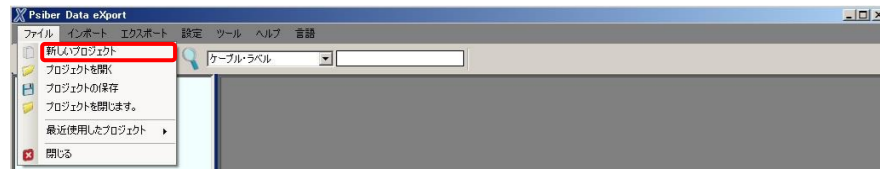


オートテスト

試験設定が保存されたセットリファレンスと一致している状態でAUTOTESTボタンを押すと、試験が開始されます。リファレンスの設定がない場合、セットリファレンスを実行するように促します。

eXportソフトウェアの使用

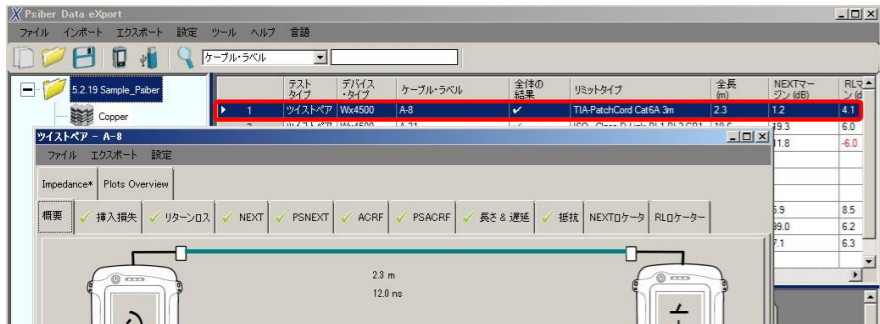
1. eXportソフトウェアを起動させます。
2. ファイル → 新しいプロジェクトを選択してプロジェクトを作成します。



3. セーブされた結果をeXportにインポートします。
 - ・WX4500本体：インポート → デバイスを選択して結果をインポートします。
 - ・USB：インポート → USBドライブを選択して結果をインポートします。
 - ・PC：インポート → PCからを選択して結果をインポートします。



4. 結果リストをダブルクリックすると結果の詳細が別画面で表示されます。



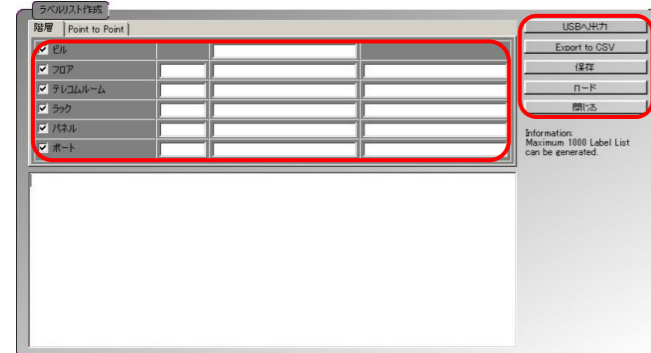
リスト ベイスド試験

階層形式ラベルリストの作成

ラベルリスト生成は、ケーブル認証を行う前にカスタマイズ可能な階層形式(ビル名→フロア→テレコムルーム→ラック→パネル→ポート)のラベルを作成します。それにより、試験後のラベル作成操作を減らすことが可能です。連続していない試験のとき、本体にインポートされた定義前のラベルは二重のテストを防止します。

ラベルリストの作成

1. eXportを起動させ、ツール → ラベルリスト作成をクリックします。
2. それぞれのフィールドに開始No.と終了No.を入力します。
3. 階層を使用しない場合は、チェックを外します。
4. 保存ボタンをクリックしてラベルを保存します。
5. PCにUSBメモリをセットして、USBへ出力をクリックします。

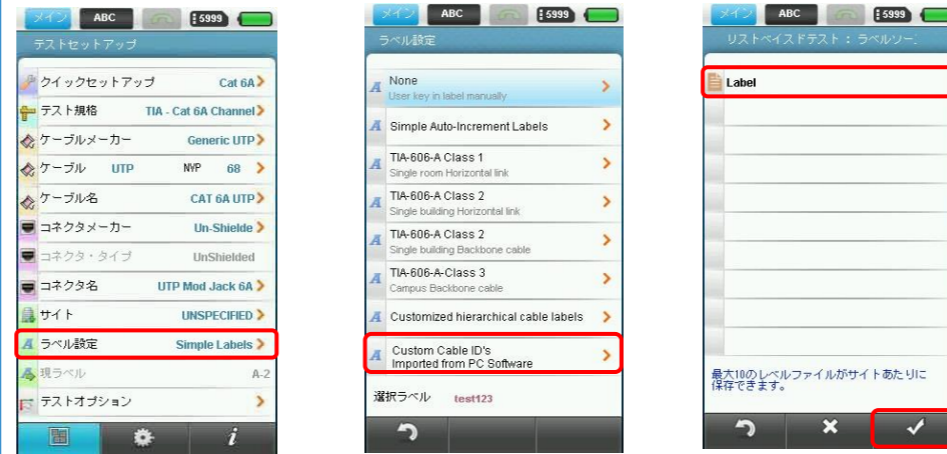


ラベルリストのロード

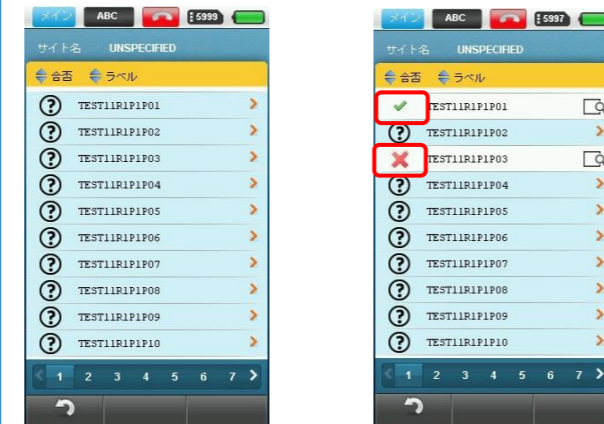
1. ワイヤーエキスパートのローカルユニットにUSBメモリを接続します。
2. リストベイスドテストのケーブルラベルをロードを選択します。
3. YESをクリックします。自動的にロードされます。



4. SETUP → テスト条件の設定 → ラベル設定を選択します。
5. Custom Cable ID's Imported from PC Softwareを選択し、インポートするLBTファイルを選択します。



6. リストからラベルを選択してAUTOTESTを実行します。試験終了後、✓ は合格を表し、✗ は不合格を表します。



WireXpert

クイック・スタート・ガイド エンサークルドフラックスアダプタ



エンサークルドフラックス マルチモード
アダプタセット

光LCセット

マルチモードファイバの認証試験は、測定過程の固有の不確実性のための議論に問題視されてきました。ISO/IECとTIAは、マルチモード用のテスト装置で使用される光源の発光条件を標準化するエンサークルドフラックス(EF)を採用しました。

新しいMMEFアダプタは、これらの新しく厳しい基準に適用できるように設計されています。全てのMMEFテストセットには、トランスペアレントコードが含まれています。そのため高価なランチコードが必要ありません。アダプタのVFLは、ファイバの故障箇所を直接の目視を可能にします。

WX4500 MMEFアダプタセット (WX_AD_MMEF_KIT)

構成

- MMEFテストアダプタ(波長850/1300nm LD光源) × 1セット
- FC-SCTランスペアレント リファレンスコード × 2本
- SC-SCTランスペアレント コード × 2本

WX4500 光LCセット (WX_AD_MMEF_KIT_LS)

構成

- FC-SCTランスペアレント リファレンスコード × 2本
- SC-SCTランスペアレント コード × 2本
- LCアダプタ × 2個

はじめに

SETUP リファレンスの設定

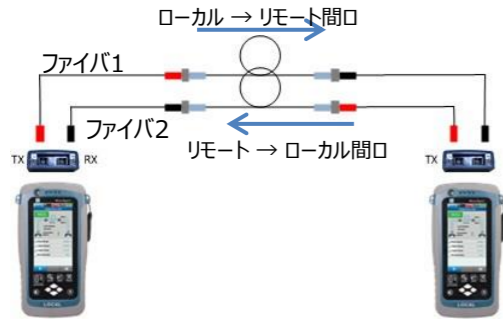
1. **SETUP** → **テスト条件の設定** → **参照方法** で以下のリファレンス設定を実行します。

- ・一方向測定か双方向測定の設定
- ・ループバックかリモートユニットの設定
- ・構成設定：1ジャンパー法、2ジャンパー法、3ジャンパー法

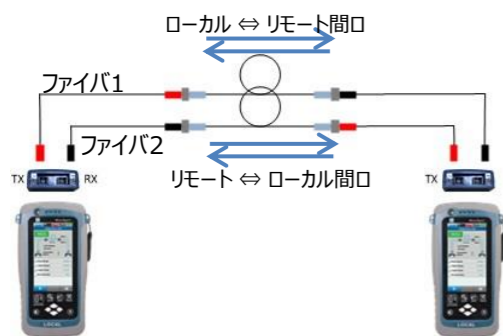


一方向と双方向試験

双方向の必要がない限り、一方向を選択してください。



一方向試験では、各ケーブルの損失は一方向のみ測定されます。上図の通り、ファイバ1ではローカルからリモート間、ファイバ2ではリモートからローカル間の損失のみ測定されます。



双方向試験の場合、各ファイバの損失はローカルからリモートユニットの双方向で測定されます。

この試験では、オートテストの途中でファイバの接続を交換して頂く必要があります。

※ リファレンス設定中にケーブル接続の交換はしないでください。

リモートループバックもしくはリモートユニットの構成



環境設定として、ループバック試験もしくは、オートテストを実施するリモートを使うかを選択します。ループバック設定の場合は、短いパッチコードでケーブル端末をループバックさせてください。

TOOLS リファレンスの実行



リファレンス測定のセットアップを行ったら、TOOLメニューから基準値設定ボタンをクリックして、リファレンス測定を行います。リファレンスコードの長さや損失がリファレンス測定の質に影響します。出荷時に添付されているリファレンスコードをご使用ください。

注意1：オートテストと同じ構成でリファレンス測定を行わないと、オートテスト中にエラー表示します。

注意2：必ず出荷時に添付されているリファレンスコードをご使用ください。ワイヤーエキスパートはリファレンス祖憶定時にその品質も評価しますので、損失が大きい場合や長い

SETUP 規格とコネクタの設定

オートテストの前に、試験する規格を選択してください。TIAまたはISOを選択すると、規格に従った損失範囲によって合否の基準が決まります。TIAの場合はTIA568C.3、ISOならISO14763-3です。



測定するファイバにある接続点とコネクタの数を設定してください。TIA/ISOを選択した場合、コネクタと接続点数に基づいて、測定範囲は計算されます。セトリファレンスで行ったコネクタは除いてください。TIA/ISO規格では、コネクタの最大許容損失は0.75dBですが、ワイヤーエキスパートはコネクタ損失をより厳しい条件で設定することができます。



コネクタ数や接続数に関係なくリンクロスを設定することができます。試験結果はカスタマイズされたロス値によって決まります。

距離制限



TIA942-A等、ほとんどの規格では光ファイバリンク上の最大長について規定しておりません。ワイヤーエキスパートはオートテストの合否基準値を決めるべく、長さ範囲の設定が可能です。距離制限を設ける必要がない場合を設定しておいてください。